

参加者と手のひらを重ね合わせ、流れるように毛筆の文字を色紙に描く。小樽市宣誠寺で9

日に開かれた「新春生き生きライブ 書&笑」。後志管内神恵内村出身の書家・若山象風さん(52)

「札幌在住」は、来場者の「気」を感じて希望する文字を書き上げていた。

2006年から同寺の峰尾泉栄住職の要請もあり、新年の初仕事は、同寺でのライブを恒例にしている。「舞台がお寺だけに、参加者も和気あいあいとした雰囲気です

ね。また、縁も感じているのです」

神恵内村のお寺で生まれた。それだけに、寺を市民に開放し、さまざまなイベントを実施しています。

る宣誠寺の取り組みに賛同している。「『文字で

人が元気になってくれれば』と新年からあらためて思えます」と筆を走ら

04年から道内外で本格的な書のライブ活動を始めたが、来場者が希望する文字の変化を感じる。

「『癒やしを与える文字』という時期から、今は『元

人が元気になる文字を

気になりたい』『力をください』との要望が多いです」と時代の空気を読み取る。

来場者の背中を押せるような文字を線と墨のコントラストで表現したい。その思いは一層強まっている。

